

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
市 民	1	年間稼働率	3ホール稼働率	コンサートホール 86.0%以上	92.3%	A	コンサートホールは指標比107%、劇場は同102%、能楽堂は同113%といずれも目標を達成した。特にコンサートホール、能楽堂はA評価と高いレベルで目標を達成することができた
				劇場 78.5%以上	80.1%	B	
				能楽堂 34.7%以上	39.3%	A	
	2	年間利用者数	施設別利用者数 + 視察・見学者等	年間人数 245,316人以上	291,975人	A	目標を約4万6千人上回った（指標比119%）
	3	文化事業年間鑑賞者数	自主文化事業の年間入場者・参加者数	年間人数 85,000人以上	90,578人	A	目標を約5千人上回った（指標比106%）
	4	利用者満足度	満足度	貸館利用者（主催者）の満足度調査で、「たいへん満足」「まあ満足」が90%以上	99.6%	A	指標比111%
				文化事業公演等の鑑賞者の満足度調査で「たいへん満足」「まあ満足」が90%以上	98.7%	A	指標比109%
	5	貸館利用者（主催者、公演鑑賞者等）に対するサービスの提供及びホスピタリティ等に関する取り組み	右記の取り組みをしているか	専門性の高い職員による安全で高度なサービスを提供し、アンケート等に基づいた細やかなサービス提供やレセプションистの配置等により館内ホスピタリティ等を充実させる	貸館担当者、舞台技術担当者、レセプションистが連携してサービス業務を実施した	B	
				意見箱、アンケート、インタビューを組み合わせた利用者の意見聴取を実施する	主催者にはアンケートとインタビューを実施し、公演鑑賞者等からは意見箱に投書が寄せられた	B	「手厚いご支援ありがとうございました」「様々な要望や相談に快く対応していただきありがとうございました」などお褒めの言葉が多く寄せられた
	6	広報の充実	右記の取り組みをしているか	複数の媒体を組み合わせて、公演や催し物情報等の効果的な広報を行う（①ホームページ、②SNS、③テレビ、④デジタルサイネージ、⑤インターネット広告、⑥機関紙等）	①～⑥すべて取組あり。加えて、館独自制作動画「りゅーとびあスタンディングオベーション（公演紹介動画）」を制作し動画共有サイトで情報発信	A	
	7	苦情・要望に対する対応	右記の取り組みをしているか	回答が必要な場合、2週間以内に連絡を入れる（回答が遅れる旨の連絡でも可）	苦情・要望には2週間以内に対応をした	B	
	8	ワークショップ 回数・アウトリーチ回数	実施回数	ワークショップ 回数・アウトリーチ回数が年間100以上	105回	B	音楽65（登録アーティスト20、キミとも45） 演劇 8（柏木1、共にプロット7） 能楽 9（能演4、狂言演4 こどもWS1） 舞踊23（アウトリーチ20、外部依頼WS3）
	9	文化事業への地元アーティストの活用	右記の取り組みをしているか	新潟市近郊出身又は在住等アーティストを活用する事業を実施	実施例多数	A	専属舞踊団Noism Company Niigataはメンバー全員が市内在住、専属オルガニストも市内在住 ジュニア音楽3教室の指導者の多くがOBOG 音楽アウトリーチリスト、APRICOT指導者も市内在住
	10	地域社会などとの連携（社会包摂の取組みを含む）	機会件数	教育・医療・福祉等の地域団体や多様な主体との連携機会が年間で4件以上	12件	A	音楽2（小学校アウトリーチ×2）、演劇3（小学校公演、高校演劇部、市内ミニシアター）、能楽2（小学校アウトリーチ×2）、舞踊5（障がい者団体、小学校アウトリーチ、図書館、子育て支援施設、高校ダンス部&区役所）
	11	子どもが文化芸術に触れる機会の提供	実施件数	子ども向け文化事業を年間2件以上実施	子供向け音楽事業、子供劇団、能楽体験事業、ダンスWS等	A	音楽事業（キミとも、オルガンサマー、ジュニア音楽3教室、小学校アウトリーチ）、演劇事業（子供劇団APRICOT、高校演劇部向けWS）、能楽事業（さわって&のぞいてみよう、小学校アウトリーチ）、舞踊事業（小学校アウトリーチ等）

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
財 務	12	市の歳入の増加	右記のとおり	使用料収入 73,248千円以上	68,137,507円	C	指標比93% 稼働率は良かったが、利用1件あたりの単価が下がったことが影響した。施設使用料単価が高い入場料を徴収する本番利用&設備使用の減少が要因として挙げられる。
	13	文化事業 自主財源比率	（事業収入＋文化庁補助金等）／ 事業費	自主財源比率 67%以上	63.9%	B	指標比95.3%
	14	第三者からの高い評価による市民の文化的環境の充実	右記のとおり	国等からの財政的支援の獲得	文化庁（芸文振）劇場・音楽堂等総合支援事業(全国トップ15館)に選定され高額の財政支援を獲得 ※15館中2番目の獲得額	A	2年目／5年継続
業 務	15	日常連絡の適切さ	月次報告書の提出	提出期限 翌月10日	毎月10日までに提出	B	
	16	事業計画・事業報告の適切さ	事業報告書の提出	提出期限 翌年度4月30日	4月30日までに提出	B	
	17	運営方針・事業目標	右記の取り組みをしているか	・設置目的、基本的使命等を踏まえた運営方針がある ・運営方針をホームページ等で市民に公開している ・運営方針に基づく事業目標に関する自己評価を行っている	3指標すべてにおいて取り組みを行っている なお、運営方針は文化庁（芸文振）から高い評価を受け、劇場・音楽堂等総合支援事業（全国トップ15館）に選定されている	A	「新潟市民芸術文化会館、新潟市音楽文化会館 指定管理者業務計画書」をHPで公開
	18	運営方針を実現するための経営戦略の有無	右記の取り組みをしているか	・内部で定期的に各事業を検証する会議を実施している ・所有者である市と定期的に共有・意見交換の機会を設けている ・業務改善、経営の効率化に取り組んでいる	3指標すべてにおいて取り組みを行っている	B	・支配人出席の各部門会議を年8回実施（各部門2回／年） ・市との随時ミーティング（各部門それぞれで随時）
	19	安全安心の確保	右記の取り組みをしているか	非常連絡網の作成等による危機管理体制の整備	指標に加えて、 ・防災ミーティングの実施 ・非常時活動カードの見直しを実施した	A	地震対応訓練と火災対応訓練を2回、AED訓練を1回実施した
	20	当該施設の管理に係る関係法令の遵守	右記の取り組みをしているか	コンプライアンス及びハラスメント対策の実施	コンプライアンス ・全職員を対象とした研修を実施 ハラスメント ・ハラスメント防止の方針及び相談員について全職員へ周知 ・動画研修の全職員への周知 ・啓発ポスターの職場内掲示	A	研修に加えて、対応方針等の周知徹底に取り組んでいる
			右記の取り組みをしているか	守秘義務違反に該当する問題がないこと	守秘義務違反なし	B	

視 点	No	評 価 項 目	評 価 方 法	評 価 指 標	実 績	評 価	コ メ ン ト
人 材	21	専門性の高い人材の活用	施設設備管理運営上必要な専門的知識、技能、経験、資格等を備えた人材を配置しているか	・建築物環境衛生管理技術者 ・防火管理者 ・第三種電気主任技術者 ・2級ボイラー取扱作業主任者 ・危険物取扱者乙種4類 等	指標に加え ・一級建築士 ・消防設備士の免許を必要とする業務を実施	A	実績は、財団職員が実施し委託費を削減した事例
	22	職員の育成	右記のとおり	館内研修を年2回以上実施	コンプライアンス研修（全職員対象）ハラスメント研修（新規採用職員対象）の実施	B	ハラスメント研修はR5年度末に全職員を対象に実施したため、R6年度は新規採用職員を対象として実施
			右記のとおり	館外の研究会や研修会などに参加	・社会貢献教育ファシリテーター基礎研修 ・フルハーネス（墜落制止用器具）研修 ・地域や中小企業における デザイン経営 入門	A	館外の研修会等に積極的に職員を参加させ職員の育成を図った
	23	労働基準の充足	右記のとおり	労働基準違反に該当する問題がないこと	36協定違反なし	B	

【評価基準（市提示）】

- A：要求水準（評価指標）を達成し、かつその達成度・内容が優れている（複数の指標の場合、全てを達成し、かつその達成度・内容が優れている）
- B：要求水準（評価指標）が達成されている（複数の指標の場合、全てが達成されている）
- C 要求水準（評価指標）が達成されていない（複数の指標の場合、全ては達成されていない）

【指定管理者による自己評価時の基準】 ※ 市提示の評価基準を補足・明確化するもの

数値指標の場合

- A：指標＋5％超
- B：指標±5％以内
- C：指標－5％超

数値指標でない場合

- A：複数指標全て達成＋αの取り組み有り

総 合 評 価 （ 所 見 ）
 ・ R6年度は、R5年5月に政府による新型コロナウイルス感染症5類移行後1年が経過したこともあり、市民（来場者）マインドが回復したことを受けて「施設利用者数」「施設稼働率」等の目標を達成することができた。しかしながら「施設使用料収入」は利用1件当たりの単価が下がったことで目標を下回った。 ・ コロナ禍前には、高いレベルで目標を達成していた自主文化事業の「年間入場者・参加者数」は、コロナ禍中～R5年度迄目標を達成することができていなかったが、市民（来場者）マインドの回復もありR6年度は再び高いレベルで目標を達成することができた。また「ワークショップ・アウトリーチ回数」は、R5年度に引き続き積極的に館外に出向くなどし、目標を達成することができた。 ・ R5年度に引き続き、「貸館利用者（主催者）の満足度」「自主文化事業公演等の鑑賞者の満足度」は、いずれも高いレベルで目標を達成することができた。 ・ R6年度は「施設使用料収入」のみ目標を達成できなかった（C評価）ため、R7年度は目標を達成できるよう取り組みを強化したい。